

令和5年度

SYLLABUS

～ Approach to Studying ～

1年 福祉科



香川県立高松南高等学校

はじめに

皆さんは、マンガを読みますか？テレビやパソコンでゲームをしますか？

マンガやゲームが生活に深く根付いている今、マンガを読んだことやゲームをしたことのない人を捜すのは至難の業でしょう。中には、自分の時間のほとんどを、マンガやゲームに費やす人もいたりして…。

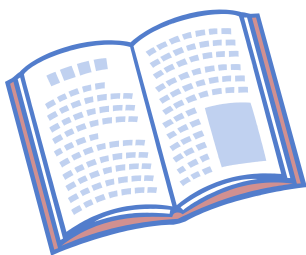
ところで、なぜ、マンガを読んだりゲームをしたりするのか考えたことがありますか。何人かの生徒に聞いてみると、「面白いから」とか「ストレス解消」という答えが返ってきました。しかし「なぜ、そんなことを聞くのか」と、逆に質問されてしまいました。楽しいことに対して「なぜそれをするのか」と聞くことが、そもそも不思議だったようです。

では、勉強についてはどうでしょう。「なぜ勉強しなければいけないのか」、「こんな勉強をして何になるのか」。そう思ったことはありませんか。この質問にズバリ答えるのはとても難しいことです。考古学者の平賀・キートン・太一氏は、閉鎖されるパリのシモンズ社会人学校の冬季セミナー最後の講義で、「人間は一生学び続けるべきです。人間には好奇心、知る喜びがある。肩書きや、出世して大臣になるために学ぶのではない。それが人間の使命だからです。」と本質的理由を受講生に語っています。少し考えてみても、テストに出る、成績が上がるとお小遣いも上がるなどの外発的理由や、将来の仕事に役立つ、分かれると充実感があるなどの内発的理由まで様々でしょう。

シラバス (Syllabus) の語源はギリシャ語の「Sittuba」で、元々は羊皮紙製の書籍ラベルのこと。明治時代には「教授要目」などと訳されていたようです。ページをめくっていただければお分かりのように、本校のシラバスは、科目の概要や学習目標、授業計画、学習方法など、履修や選択するために必要な情報をコンパクトにまとめています。

高等学校での学習の基本は「授業」。もちろん家庭学習も大切ですが、毎日の「授業」をないがしろにして、家庭学習は成立しません。

折に触れ、シラバスのページをめくってください。きっと、授業を通して何をどう学ぶのかを考える手助けになるはずです。



参考文献：『開かれた学びへの出発』市川伸一（金子書房）

『MASTER キートン』勝鹿北星（小学館）

福祉科

◎科の目標

- 福祉の学習や介護の実習を通して専門的な知識と技術を身に付け、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う介護福祉士の育成を目指します。
- 「社会福祉基礎」「介護福祉基礎」「生活支援技術」「介護実習」「介護総合演習」「こころとからだの理解」「福祉情報」等を学習します。

◎資格取得、進路

- 介護福祉士国家試験受験資格、赤十字救急法救急員修了証
- 大学・短大・専門学校への進学、介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者支援施設等への就職

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	現代 の 国語		言語 文化		公共		数学 Ⅰ		科学 と 人間 生活		体育		芸術Ⅰ		英語コ ミュニ ケーションⅠ		社会 福祉 基礎	介護 福祉 基礎	コ ミュ ニ ケー ション 技術	生活支援技術				介護 総合 演習	介護 実習			こころと からだの 理解		L H R		
2年	文学 国語		地理 総合		数学 Ⅰ		体育		保健	英語コ ミュニ ケーショ ンⅡ	家庭 基礎		社会 福祉 基礎	介護 福祉 基礎	コ ミュ ニ ケー ション 技術	生活支援 技術		介護 過程	介護 総合 演習	介護実習				こころと からだの 理解		福祉 情報		L H R				
3年	文学 国語		歴史 総合		生物 基礎		体育		英語コ ミュニ ケーショ ンⅡ		社会 福祉 基礎		介護 福祉 基礎	生活支援 技術		介護 過程	介護 総合 演習	介護実習				こころとから だの理解				L H R						

教科 国語

科目 現代の国語

対象 1年生 福祉科

単位 2

主な授業形態 座学

目 標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方など、学んだことの80%以上理解できる。	○他者を意識して話す、聞く、書く、読むことができる。 ○他の考えと自分の考えを比較できる。 ○他の考えと自分の考えを比較した文章が書ける。	○自ら、言葉（話す・書く）を使って他者に関わろうという強い意欲がある。 ○将来・人生・生活などに学んだ内容を結び付けて考えようという意欲がある。 ○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方などを、理解しようとする強い意欲がある。
ステップ	○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方など、学んだことの65%以上(80%未満)理解できる。	○自分の伝えたいことを、まとめたり、伝えたりできる。 ○他者の考えをまとめられる。他者の考えを理解できる。	○言葉（話す・書く）を使って他者に関わろうという意欲がある。 ○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方などを、理解しようとする意欲がある。
ホップ	○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方など、学んだことの40%以上(65%未満)理解できる。	○自分の伝えたいことを、ある程度まとめたり、伝えたりできる。 ○他者の考えをある程度まとめたり、理解したりできる。	○言葉（話す・書く）を使って他者に関わろうとしている。 ○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方などを、理解しようとしている。

成長のプロセス

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「現代の国語」（大修館書店）

副教材 「学習ノート」（大修館書店） 「新版六訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社）
「漢字の学習」（香川県高等学校国語教育研究会）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学期	●「考える」ことの重要性を学ぶ 1、明日をひらく ●自分の考えを的確に伝える（話す・聞く）（書く）（伝わるように話す・わかりやすく書く） 3、的確に伝える 4、意見を示す
2 学期	●情報を的確にとらえる（読む） 2、要点をつかむ 5、論理をとらえる 9、情報を比較する 11、主張を吟味する ●情報に対する意見を伝える（書く）（話す・聞く） 6、魅力的に伝える 7、資料を駆使する
3 学期	●他者を意識して考え、また、他者を意識して自分の考えを伝える（書く）（話す・聞く）（読む） 8.他者と交流する 10.他者を動かす 12.考えを発信する

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。
- ・「聞く・話す」、「書く」、「読む」のそれぞれの力について、自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・板書を写し取るだけでなく、自分の考えや感想、疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫をしたノート作りをする。
- ・提出物は丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。
- ・読書を習慣化するなど、日常生活の中に「読む・書く・話す・聞く」を積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・感想 ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート ・感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	高校での国語の学習の基本となる科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

教科 国語

科目 言語文化

対象 1年生 福祉科

単位 2

主な授業形態 座学

目 標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの80%以上理解できる。 ○作品の背景や他の作品などとの関係を踏まえて、作品を解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自ら題材を決め、他者を意識して表現することができる。(書く)	○言葉の特徴や使い方、言語文化に強い興味や関心を持ち、理解しようとする強い意欲がある。 ○自ら言葉(話す・書く)を使って他者に関わろうという強い意欲がある。
	ステップ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの65%以上(80%未満)理解できる。 ○作品そのものの内容を解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自分の伝えたいことを、まとめたり、伝えたりできる。(書く)	○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持ち、理解しようとする意欲がある。 ○言葉(話す・書く)を使って他者に関わろうという意欲がある。
	ホップ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの40%以上(65%未満)理解できる。 ○教師等による解説や助力を頼りに、作品そのものの内容がある程度解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自分の伝えたいことを、ある程度まとめたり、伝えたりできる。(書く)	○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持とうとし、理解しようとしている。 ○言葉(話す・書く)を使って他者に関わろうとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「言語文化」（大修館書店）

副教材 「学習ノート」（大修館書店） 「新版六訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社）
「古典文法クリアノート」（尚文出版） 「漢字の学習」（香川県高等学校国語教育研究会）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学期	●言語文化への視点を持つ 世界を見渡す窓（現代文） 等 ●考えを表す言葉の変遷を学ぶ 論語（漢文） 徒然草（古文） 随筆（現代文） 等
2 学期	●物語を表す言葉の変遷を学ぶ 故事成語（漢文） 物語（古文） 小説（現代文） 等
3 学期	●想いを表す言葉の変遷を学ぶ 漢詩（漢文） 和歌（古文） 短歌・俳句・詩（現代文） 等

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。
- ・「聞く・話す」、「書く」、「読む」のそれぞれの力について、自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・板書を写し取るだけでなく、自分の考えや感想、疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫をしたノート作りをする。
- ・提出物は丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。
- ・読書を習慣化するなど、日常生活の中に「読む・書く・話す・聞く」を積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・感想 ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート ・感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	高校での国語の学習の基本となる科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
観点別：A	公民的な知識・技能を活用して、現実社会の諸課題の解決に向けて主体的に取り組んでいる。		
ジャンプ 評価：5	○倫理、政治、経済などに関わる概念や理論を、現代の諸課題と結びつけながら深く理解している。 ○諸資料を基に必要な情報を、倫理的、政治的、経済的、法的な視点から効果的に収集し、読み取ることができる。 ○収集した情報と、授業で学んだ考え方や基本的原理とを結びつけて適切な方法でまとめることができる。	○授業で学んだ見方・考え方を活用して、現代の諸課題について、他者と協力しながら深く考えることができる。 ○課題の解決に向けて深く議論することができる。 ○学習テーマにおける問題を明らかにし、自分の考えを分かりやすく文章で表現することができる。	○日常生活や他教科で学んでいることと関連付けて考えている。 ○常に創意工夫し、課題の解決に向けて取り組んでいる。 ○主権者としての自覚をもち、自分の人生との関わりを意識しながら学習に取り組んでいる。 ○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとしている。
観点別：A	公民的な知識・技能を踏まえて現実社会の諸課題の解決に向けて取り組んでいる。		
ステップ 評価：4	○倫理、政治、経済などに関わる概念や理論を、現代の諸課題と結びつけながら理解している。 ○諸資料を基に必要な情報を、倫理的、政治的、経済的、法的な視点から収集し、読み取ることができる。 ○収集した情報と、授業で学んだ考え方や基本的原理とを結びつけてまとめることができる。	○授業で学んだ見方・考え方を活用して、現代の諸課題について、他者と協力しながら考えることができる。 ○課題の解決に向けて議論することができる。 ○学習テーマにおける問題を明らかにし、自分の考えを文章で表現することができる。	○身の回りの生活と関連付けて学ぼうとしている。 ○学び方や取り組み方を改善し、学び続けようとする。 ○主権者としての自覚をもち、自分の進路目標との関わりを意識しながら学習に取り組むことができる。 ○学習態度が主体的・対話的で学び続けようとしている。
観点別：B	現実社会の諸課題の解決に向けて取り組んでいる。		
ホップ	○倫理、政治、経済などに関わる基礎的基本的な概念や理論を	○授業で学んだ見方・考え方を活用して、現代の諸課題について	○基礎的・基本的な知識・技術や考察力を身につけようと

理解している。 ○諸資料から、情報を収集し、読み取ることができる。 ○収集した情報をまとめることができる。	考えることができる。 ○教師の助力があれば、課題の解決に向けて議論することができる。 ○学習テーマに対する自分の考えを文章で表現することができる。	している。 ○学習内容をさらに理解するために学び方を改善しようとする。 ○教師の助力があれば進路実現に向け、学習に取り組むことができる。 ○学習態度が主体的で、提出物などを期日までに自分の力でやりきることができる。
---	---	--

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「高等学校 新公共」 第一学習社

副教材 「最新公共資料集 2022」 第一学習社 ， 「新公共ノート」 第一学習社

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学期	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第3章 公共的な空間における基本的原理
2 学期	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち 第2章 政治的な主体となる私たち
3 学期	第3章 経済的な主体となる私たち 第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち 地球環境問題 生命倫理 国際社会の課題 資源・エネルギー問題 情報化社会

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切にして毎時間の内容を理解できるよう努力するとともに、ただ黒板を写すだけではなく、工夫をして自分なりのノートをつくる。
- ・授業中に疑問に思ったことは質問したり、自分で資料集・参考書やインターネット等を使って調べたりしてさらに理解を深める。
- ・グループ活動に積極的に参加し、他者と協力しながら課題を解決する姿勢を身に着ける。
- ・授業を通して理解したことやできるようになったことを振り返る習慣をつける。
- ・普段から新聞・テレビ等のニュースを見るようにして、授業で学習したことを踏まえて、社会で起きている出来事について考察したり、自分の考えをまとめたりする習慣をつける。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート	・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○公式・法則，用語などを理解し，導くことができる。 ○副教材の応用問題の解法を理解している。	○十分に数理的に考察する力を付けている。 ○応用問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。	○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○副教材の応用問題に積極的に取り組む。
ステップ	○基本的な概念，原理・法則，用語・記などを理解している。 ○副教材の基本的な内容をおおむね理解している。	○おおよその数理的に考察する力を付けている。 ○基本問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。	○教科書で学んだ範囲に対し，副教材で復習を行う。 ○提出課題等，計画的に行っている。



ホ
ッ
プ

○数学用語を理解し、教師の説明を受けたり、例題を参考にしたりしながらの練習問題に取り組む。

○教師の説明を参考にし、公式成立の理由を理解しようと努める。

○板書を写すだけでなく、教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「数学Ⅰ Essence」 （東京書籍）

副教材 「ニュージャスト数学Ⅰ」 （東京書籍）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学 期	1章 数と式 1節 式の計算 2章 集合と論証 1節 集合
	2節 実数 3節 1次不等式 2節 命題と論証
2 学 期	3章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ 2節 2次方程式と2次不等式
3 学 期	4章 図形と計量 1節 鋭角の三角比 2節 三角比の拡張 3節 三角形への応用
	5章 データの分析 1節 データの整理と分析 2節 データの相関

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として、教科書を見て疑問点をチェックしておく。
- ・ 積極的な態度で授業に臨み、授業で何がわかったかできるようになったかを復習するため、問題集を解く習慣をつける。
- ・ 板書を写し取るだけでなく、自分が考えるときのポイントや疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫してノートを取る。
- ・ 疑問点については、授業中に先生に質問する、あるいは休み時間などを利用して質問するなどして早めに解決する。
- ・ 教科書や問題集の基本問題を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 小テスト ・ 定期考査	・ 定期考査 ・ レポート ・ 授業における発表や成果物 ・ ノート ・ 長期休業中の課題	・ ノート ・ 振り返りシート、感想 ・ レポート ・ 長期休業中の課題

重 み づ け	4	4	2
	数学の学習の基礎となる基本的な「知識・技能」と「思考・判断・表現」の確実な習得を図るために、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目 標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長のプロセス	ジャンプ	○身近な材料やヒトの生命現象、熱などの学習内容について、自ら問題を解決するための観察や実験方法を考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、自ら観察、実験結果を考察し、規則性を見いだしたり、既知の事柄や原理・法則などを基に、新たに直面した事象を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察をすることができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って論理的、かつ効果的に表現することができる。	○学習内容をそれに関する事物・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を常に振り返りながら創意工夫し、課題を解決することができる。 ○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとする姿勢が見られる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒等の発言などをノートに記録しており、疑問点等について書籍やインターネットなどを用いてさらに詳しく調べようとしている。 〃	
	ステップ	○身近な材料やヒトの生命現象、熱などの学習内容を人間生活と関連付けて深く理解している。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けている。	○身近な材料やヒトの生命現象、熱などの学習内容について、教師等による最小限の助力で、問題を解決するための観察や実験方法を考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、教師等による最小限の助力で、観察、実験結果を考察し、規則性を見いだしたり、既知の事柄や原理・法則などを基に、新たに直面した事象を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察をすることができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、論理的に表現することができる。	○学習内容をそれに関する事物・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を振り返りながら調整し、学び続けようすることができる。 ○学習態度が主体的・対話的であり、課題に積極的に取り組んでいる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどを常にノートに記録している。 〃
		○身近な材料やヒトの生命現象、熱などの学習内容を人間生活と関連付けて理解している。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作	○身近な材料やヒトの生命現象、熱などの学習内容について、教師等による解説や助力を頼りに、問題を解決するための観察や実験方法を考え、見通しをも	○学習内容を正確に理解するために、基礎的・基本的な知識・技能や考察力を身につけようとしている。 ○自分の学び方を振り返り、改

ホ ッ プ	などを、教師等による最小限の助力で行うことができる。	って実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、教師等による解説や助力を頼りに、観察、実験結果を考察し、規則性を見いだしたり、既知の事柄や原理・法則などを基に、新たに直面した事象を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察をすることができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、形式に沿った表現ができる。	善すべき点について考えようとする。 ○課題や提出物などを、期日までに自分の力でやりきることができる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどをノートに記録し、授業から多くの情報を得ようとする。
-------------	----------------------------	---	--

何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「高等学校 科学と人間生活」 第一学習社

副教材 「新課程版 ネオパルノート 科学と人間生活」 第一学習社

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学 期	序 章 科学技術の発展 第Ⅰ章 物質の科学 ・材料とその利用 または ・衣料と食品 第Ⅱ章 生命の科学 ・人の生命現象 または ・微生物とその利用
2 学 期	第Ⅱ章 生命の科学（続き） ・人の生命現象 または ・微生物とその利用 第Ⅲ章 熱や光の科学 ・熱の性質とその利用 または ・光の性質とその利用
3 学 期	第Ⅳ章 地球や宇宙の科学 ・自然景観と自然災害 または ・太陽と地球

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として教科書を読み、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておくこと。
- ・授業を大切にして積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう、丁寧にノートを作る。
- ・復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。
- ・実験は担当教員の指示に従っておこない、記録をとり、報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点、実験の成否についても考察すること。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の力を重視して成績をつけます。		

目 標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)

(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。(思考力、判断力、表現力)

(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ ○各種目の高度な技を身に付けたり、記録の更新に挑戦したり、仲間に感動を与えられる表現ができる。 ○ゲームのルールや役割に応じた練習方法を工夫し、全員で楽しむためのルールの調整ができる。	○学んだ知識・技能を用いて、自己や仲間の課題解決のために効果的な練習方法を実践することができる。 ○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を合理的・計画的に考察し、自分の考えを持つことができる。	○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイを大切にできる態度が定着している。 ○怪我等を回避するための、適正な運動量や、とるべき行動を認識し、さらに他者への注意喚起を促す言動や行動により健康・安全を確保することができる。
	ステップ ○各種目の技を身に付けたり、記録に積極的に挑戦したり、感情を含めて表現したりすることができる。 ○ゲームのルールを理解し、教師や仲間からの助言をもとに、練習方法を考えることができる。	○学んだ知識・技能を用いて、自己や仲間の状況に応じた適切な練習方法を実践することができる。 ○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を最小限の助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。	○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイをしようと心がけている。 ○怪我等を回避するための、適正な運動量や、とるべき行動を認識し、健康・安全を確保することができる。
	ホップ ○各種目の技を身に付けようと努力したり、記録に挑戦したり、表現したりすることができる。 ○与えられたルールを概ね理解し、教師や仲間による見本や練習方法をもとに、体力の高め方を理解する。	○教師や仲間の助言があれば、自己の状況に応じた練習方法を実践することができる。 ○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を教師等の個別の解説や助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。	○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、教師からの助言があれば相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイに取り組む様子がみられる。 ○教師からの助言があれば、怪我等を回避するための、運動量や、とるべき行動を認識し、健康・安全に努める。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新高等保健体育」 （大修館書店）

副教材 「ステップアップ高校スポーツ」 （大修館書店）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	・体づくり運動 - 選択① 器械運動・ダンス - 選択② 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道
2 学期	・体づくり運動 ・体育理論 - 選択③ 器械運動・ダンス - 選択④ 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道 ・持久走
3 学期	・体づくり運動 ・持久走 - 選択⑤ 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切にして、教師や仲間のアドバイスを聞いて、技能を高める習慣を身につけるようにする。
- ・実技教科のため、欠席をせずに、課題に粘り強く取り組む。
- ・仲間と協力して、練習やゲーム、発表会に取り組む。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・スキルテスト ・ルールテスト ・体育理論テスト	・振り返りシート	・振り返りシート、感想
重みづけ	2	1	1
	実技教科のため、基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。		

教科 芸術

科目 音楽Ⅰ

対象 各科 1年生 選択者

単位 2

主な授業形態 座学・実技

目 標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などのかかわり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 主体的・協同的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○教師による助言を受けずとも、自分の力で課題に取り組むことができる。 ○ノートやワークシートについて、これまでの授業や中学校までの経験を生かして、多角的に取り組むことができる。	○創意工夫をして作品を完成させることができる。 ○様々なジャンルの音楽に振れ、知識の幅を広げたり、深く考えたりできようとする。
	ステップ	○時間内で課題に取り組み、作品を完成させることができる。 ○ノートやワークシートについて、自分なりの言葉でまとめることができる。	○自分や周りの出している音を注意深く聞き、他者に伝える力を高めようとする。 ○自分の学び方を振り返りながら、学び続けようとする。 ○授業で学んでいる曲を進んで鑑賞している。
	ホップ	○ト音譜表、ヘ音譜表の音符をそのまま読む、もしくは階名を振って読むことができる。 ○授業の内容を、資料を参考にしながら理解できる。	○教師による助言を参考にし、課題に取り組むことができる。 ○ノートやワークシートについて、最低限授業で求められることができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「MOUSA1」（教育芸術社）

副教材 「Music Note」（啓隆社）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1学期	歌を歌おう ・校歌及び簡単な独唱、合唱曲を歌う。可能ならグループ学習へ移行。 楽器にふれよう ・鍵盤楽器や簡易な打楽器を演奏する。可能ならグループ学習へ移行。 指揮してみよう ・平易な曲を使用し、基本的な図形を振る。フェルマータを振る。 様々な楽器の音色に親しもう ・鑑賞をすることにより、管楽器や弦楽器の音色に親しむ。楽器の特性を知る。
2学期	一人で演奏しよう ・夏休みの課題を発表する。 表現を工夫してギターのリズムをしよう。 ・「シチリアーナ」の2～3重奏をする。 日本や諸外国の様々な楽器にふれよう ・和楽器や諸外国の民族楽器の音を出してみる。 総合芸術や楽器編成について知ろう ・歌劇や2～4管編成の管弦楽曲等を鑑賞することにより、スコアリーディングをする。
3学期	フランスの作曲家について生涯と作品をたどろう ・ドビュッシーやラヴェル等の生涯をたどりながら、作品の特徴を理解し魅力を味わう。 創作を含めた様々なアンサンブルに取り組もう ・ハンドクラップや合唱奏をグループで取り組む。各グループに応じたアレンジを行う。 ギター以外の弦楽器にふれる ・ヴァイオリンの開放弦を弾き、ボーイングのアップとダウンの違いを知る。

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業時間を大切にして、毎回の授業に熱心に取り組む。
- ・グループ学習は、メンバーと協力して発表に取り組む。
- ・提出物に関しては、締め切りを守って提出する。
- ・器楽、声楽、創作（楽典含む）、鑑賞とまんべんなく取り組むので、苦手意識を減らす。
- ・書籍やインターネットなどを活用し、普段から音楽について深い考察を心がける。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・実技テスト ・鑑賞の感想（ノート） ・ワークシート ・レポート	・実技テスト ・鑑賞の感想（ノート） ・ワークシート ・レポート	・ノート ・自己評価、他己評価 ・ワークシート
重みづけ	2	2	1
	音楽の学習の基礎となる演奏力を高めるために、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点を重視して成績をつけます。		

目 標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて深く考え、創造的に発想したり、構想を練ったりすることができる。 ○価値意識をもって美術に対する見方や感じ方を深めることができる。	○主体的に美術の幅広い創造活動に取り組んでいる。 ○他人の作品を積極的に鑑賞し、良さや違いを発見し、多様な価値観に気づくことができる。 ○創意工夫をして真摯に製作に取り組み、作品を完成させることができる。
	ステップ	○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、創造的に発想したり、構想を練ったりすることができる。 ○美術に対する見方や感じ方を深め、意図や目的について考えることができる。	○積極的に美術の幅広い創造活動に取り組んでいる。 ○他人の作品を鑑賞し、良さや違いを発見し、多様な価値観に気づくことができる。 ○創意工夫をして作品を完成させることができる。
	ホップ	○教師による助言を参考にし、創造的に発想したり、構想を練ったりすることができる。 ○身の回りの美術について知り、興味関心を持ち、意義や価値について考えることができる。	○提出物や課題等、やるべきことを期日までに自分でやりきろうとする。 ○他人の作品を鑑賞し、良さや違いを発見することができる。 ○学んだ知識や技法を生かして作品を完成させることができる。

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「高校生の美術1」（日本文教出版）

準備物 中学で使った絵の具セット

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	・ 絵画 1（よく見て描く） 目の前のモチーフをよく観察し、鉛筆デッサンを描きます。 ・ 絵画 2（絵の具で描く） 絵の具を使って絵画を制作します。
2 学期	・ デザイン、立体造形 テーマに沿ってデザインを考え、立体で制作します。
3 学期	・ アニメーション コマ撮りアニメーションを制作します。

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 1つ1つの課題に対して目標と向上心を持って取り組む。
- ・ 授業時間を大切にして、毎回の授業に集中して取り組む。
- ・ 実技教科のため、作品は必ず完成させる。
- ・ 提出物に関しては、期限を守って提出する。
- ・ 絵画、デザイン、立体とまんべんなく取り組むので、苦手意識を減らす。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 作品 ・ アイディアスケッチ	・ 作品 ・ アイディアスケッチ ・ ワークシート	・ 授業態度 ・ 準備物 ・ ワークシート
重みづけ	2	2	1
	美術の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得と、発想力や創造性の向上を図るために「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点を重視して成績をつけます。		

目 標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。（知識及び技能）
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力）
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。（学びに向かう力・人間性等）

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○基本的な書写能力を習得したうえで、芸術書道としての表現性（古典の表現効果や風趣）を理解し、効果的な表現ができる。 ○書の伝統と文化について、見識を深めることができる。 ○古典における線質、字形、構成等の要素を捉え、創作作品を主体的に制作することができる。	○作品や書のよさを感じ取り、それを言葉で表現し、伝えることができる。 ○自ら心に響く言葉を選定したり、表現したいことを明確にしたりして、その感興に基づき作品の構想を立てることができる。 ○試行錯誤をしながら、より良い作品に仕上げるため変化させることができる。	○様々な活動を通して、知識の幅を広げたり、深く考えたりできる。 ○生活や社会において書が果たしている役割や効用を模索し、それを尊重できる。 ○作品制作において、主体的に取り組み、創意工夫を繰り返すことができる。
ステップ	○基本的な書写能力を習得し、芸術書道の表現性を感じ取ることができる。 ○書の伝統と文化について、理解できる。 ○自らの感興に沿った作品作りができる。	○作品や書のよさを味わい、自分なりの考えを持つことができる。 ○言葉の持つイメージや、表現したいことを伝えることができる。 ○教師や友人からの助言を参考にし、より良い作品に仕上げようとするすることができる。	○様々な活動を通して、知識の幅を広げることができる。 ○生活や社会において書が果たしている役割や効用を考えることができる。 ○作品制作において、主体的に取り組み、より良い作品にしようとする態度がみられる。
ホップ	○文字の点画の構成を理解し、用具用材を正しく使い、表現することができる。 ○書の伝統と文化について、興味を持つことができる。 ○資料を参考にしながら、表現したいことを構想に表すことができる。	○作品や書のよさを考えることができる。 ○作品を鑑賞して、自らの感想や考えを述べることができる。 ○教師からの助言を理解し、作品制作に生かすことができる。 ○与えられた課題に対し、真摯に取り組むことができる。	○提出物や課題等、やるべきことを期日までに自分でやりきろうとする。 ○生活や社会の中で書がどのような場面で用いられているか考えることができる。 ○作品制作において、自分の表現を振り返り、学んだ知識と技能を生かして作品を完成させることができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「書道Ⅰ」（教育出版）

準備物 太筆

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	【漢字の書】楷書の学習 「九成宮醴泉銘」、「孔子廟堂碑」、「雁塔聖教序」、「顔氏家廟碑」の臨書 ・書風の違いを味わい、用筆・運筆法を身につける。 楷書の作品を創作しよう ・学んだ古典の特徴を生かし、創作する。
2 学期	【漢字の書】行書の学習 「蘭亭序」、「風信帖」の臨書 ・行書の特徴を知り、基本的用筆法を身につける。 ・書風の違いを味わい、表現する。 【篆刻】 自刻印を制作しよう ・篆書体の特徴を理解し、草稿をつくる。 ・印刀などの用具を正しく使い、印を彫る。
3 学期	【仮名の書】 「蓬萊切」「高野切第3種」の臨書 ・仮名の基本的用筆法を学び、平仮名、変体仮名を書く。 ・連綿の特徴を学び、連綿のある語句を書く。 ・古筆の良さを味わいながら臨書する。 【漢字仮名交じりの書】 オリジナルカレンダーの制作 ・これまでの学習で学んだことを生かし、個性を生かした表現で創作する。

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業時間を大切に、毎回の授業に熱心に取り組む。
- ・一つ一つの課題に対して目標と向上心を持って取り組む。
- ・実技教科なので、作品は必ず仕上げ提出する。
- ・日常生活の中で見られる書について関心を持ち、深い考察を心がける。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・作品 ・ワークシート	・作品 ・草稿、デザインアイディア ・ワークシート ・鑑賞シート	・授業態度 ・ワークシート ・感想、自己評価
重みづけ	2	2	1
	書道の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得と、発想力や創造性の向上を図るために、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点を重視して成績をつけます。		

教 科 福祉

科 目 社会福祉基礎

対 象 1 年 生 福祉科

単 位 1 (2)

主な授業形態 座学

目 標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会福祉の向上に必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会福祉において体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
(知識及び技術)
- (2) 社会福祉の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○社会福祉に関する基礎的な内容を理解し、ペーパーテストにおいて80%程度正答することができる	○レポートにおいて、授業で学んだ社会福祉に関する基礎的な知識を活かすとともに、関連する統計や時事を踏まえて、自分の考えを明らかにした文章を書くことができる。
	ステップ	○レポートにおいて、授業で学んだ社会福祉に関する基礎的な知識を活かすとともに、関連する統計や時事を踏まえた文章を書くことができる。	○板書された内容を授業プリントに正しく写すとともに、口頭での説明も欄外に記載することができる。
	ホップ	○社会福祉に関する基礎的な内容を理解し、ペーパーテストにおいて40%以上60%未満正答することができる	○授業振り返りシートに、授業内容の要点をまとめることができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「社会福祉基礎」（実教出版）

副教材 「社会福祉基礎 学習ノート」（実教出版）、プリント、DVD 等

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	1－2 社会福祉の理念 ・現代の福祉理念(1H) ・日本国憲法と社会福祉(1H) ・地域生活と社会福祉(1.5H) 1－3 人間の尊厳と新たな福祉社会の創造 ・人間としての尊厳(1H) ・自立生活支援(1H) ・新たな福祉社会の構築に向けて(1H) 2－1 諸外国における社会福祉 ・社会福祉の歴史(0.5H) ・イギリスにおける社会福祉の発展(1)(2)(1H) ・アメリカにおける社会福祉の発展(0.5H)
2 学期	2－2 日本における社会福祉 ・近代社会福祉の黎明期(1H) ・社会事業の成立と発展(1H) ・戦時厚生事業による福祉対策(0.5H) ・戦後対策としての社会福祉の構築(0.5H) ・高度経済成長期と社会保障・社会福祉の拡充(1H) ・新世紀に向けた福祉改革と介護保険制度の導入(0.5H) 3－4 高齢者福祉と介護保険制度 *講師2H ・日本が直面する人口構造の高齢化(0.5H) ・高齢者の生きがいと健康づくりに向けて(0.5h) ・介護保険制度の誕生(0.5H) ・介護保険制度の見直し(1H) ・高齢者在宅サービス(福祉系)(0.5H)
3 学期	・高齢者の在宅サービス(医療系)(0.5H) ・地域密着型サービス(1H) ・介護保険施設(0.5H) ・老人福祉施設と高齢者向け住宅(0.5H) ・認知症ケアの充実に向けて(0.5H) ・高齢者福祉の将来 ～地域包括ケアシステムの実現に向けて～(1H)

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・教材だけでなく最新のデータや資料、DVD 等を活用し学習効果を高める。
- ・ノートやレポート等は期限内に必ず提出する。
- ・特別非常勤講師の授業で実際の、体験的な学習を行う。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・レポート ・プレゼンテーション ・長期休業中の課題	・授業プリント ・授業振り返りシート ・長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	定期テスト及びレポートでの評価に重きを置くことで、介護福祉士としての必要な知識や思考する力に重きをおく。		

目 標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、人間の尊厳を支え、自立支援を行うために必要な基礎的な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

(1) 介護について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。

(知識及び技術)

(2) 介護に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う (思考力、判断力、表現力)

(3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、適切な介護の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか (どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○高齢者や障害者に対して介護に関する基礎的・基本的な知識及び技術を身に付けるとともに、介護の意義や役割について、十分に理解できる。 ○ペーパーテストにおいて80%程度正答することができる。	○介護に関する諸問題を発見し倫理観を踏まえた解決を目指し、多様な視点から思考を深め、介護活動の現状について多面的・多角的に考察することができる。(レポート) ○介護に関する諸問題を発見し、倫理観を踏まえた科学的根拠に基づく解決方法を考え、論理的に相手に伝えることができる。また、諸問題の解決に向けて他者と議論を行うことができる。(グループワーク・発表)	○授業プリント及びノートを整理し、提出期限までに提出することができる。 ○自分の課題や学習の中の疑問点を見つけ、解決するために学習に取り組むことができる。また、その成果を提出することができる。(レポート)
ステップ	○高齢者や障害者に対して介護に関する基礎的・基本的な知識及び技術を身に付けるとともに、介護の意義や役割について、おおむね理解できる。 ○ペーパーテストにおいて60%以上80%未満正答することができる。	○介護に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、介護活動の現状について多面的・多角的に考察することができる。(レポート) ○介護に関する諸問題を発見し、倫理観を踏まえた科学的根拠に基づく解決方法を考え、論理的に相手に伝えることができる。(グループワーク・発表)	○授業プリント及びノートを整理し、提出期限までに提出することができる。 ○自分の課題や学習の中の疑問点を見つけ、解決するための学習方法を考えることができる。(レポート)
ホップ	○高齢者や障害者に対して介護に関する基礎的・基本的な知識及び技術を身に付けるとともに、介護の意義や役割について理解できる。 ○ペーパーテストにおいて40%以上60%未満正答することができる。	○介護に関する諸問題の解決を目指し、介護活動の現状について考えることができる。(レポート) ○介護に関する諸問題を発見し、解決方法を考えることができる。(グループワーク・発表)	○授業プリント及びノートをし、提出することができる。 ○自分の課題や学習の中の疑問点を見つけることができる。(レポート)

■ 何によって学ぶのか (使用教材)

・教科書 「介護福祉基礎」(実教出版) ・授業プリント

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	1-1 尊厳を支える介護 ・介護の意義、役割、尊厳をさせる介護(1) ・利用者主体の介護サービス(1) ・介護を必要とする高齢者の人権と尊厳(1) ・介護を必要とする障害者の人権と尊厳(1) 1-2 自立に向けた支援 ・自立を支援する専門職(1) ・個別性を尊重した自立のための支援(2) 2-1 介護従事者を取り巻く状況 ・介護の歴史と現状(0.5) ・介護福祉士の養成(0.5) ・介護人材の確保と定着(1) ・介護従事者のキャリアアップ(1) ・介護従事者の社会的地位の向上(1) 2-2 介護従事者の役割と介護福祉士 ・介護の役割、介護福祉士の専門性(0.5) ・災害時における支援、平常時の防災活動(1) ・在宅介護従事者の役割(1) ・施設介護従事者の役割(1) ・終末期における介護従事者の役割(1)
2 学期	2-3 介護従事者の倫理 ・専門職の倫理(1) ・専門職としての基本姿勢(1) ・プライバシーの保護(3) 2-4 介護実践における連携 ・多職種連携とチームケア(0.5) ・医療、保健、福祉と介護(0.5) ・介護支援専門員との連携(0.5) ・ボランティアとの連携(1) 3-1 介護を必要とする人の生活環境 ・介護を必要とする人の生活環境(1) ・介護を必要とする人の背景と生活環境(1) 3-2 高齢者の生活と支援 ・高齢者の活動(1) ・高齢者ととりまく環境の考え方(0.5) 4-1 介護における安全確保と危機管理 ・介護におけるリスクマネジメント(0.5) ・事故予防のための対策(0.5) ・介護現場で多い事故(2) ・身体拘束の禁止(0.5) ・介護現場における防災対策(1) 4-2 介護施設従事者の健康管理 ・健康管理の重要性(0.5) ・心理面の健康管理(1) ・身体面の健康管理(0.5) ・労働安全衛生に関する知識(1)
3 学期	4-3 感染症対策 ころろ2-2-1を含める ・感染症の理解(0.5) ・感染症の予防策(0.5) ・疥癬(4 以下3つ含める) ・インフルエンザ ・ノロウイルス食中毒 ・腸管出血性大腸菌 4-4 福祉用具と介護ロボット ・福祉用具と介護ロボットの必要性(1) ・福祉用具と介護ロボットの有効な活用(2)

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業ノート・授業プリントの整理を定期的に行う
- ・提出物は必ず期限内に提出する
- ・グループワーク等、積極的に参加し多角的・多面的に考察する

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・定期考査 ・レポート	・定期考査 ・レポート ・発表	・授業ノート ・授業プリント ・課題提出
重みづけ	2	2	1
	この教科の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。		

教科 福祉

科目 コミュニケーション技術

対象 1年生 福祉科

単位 1 (2)

主な授業形態 座学・実技

目 標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、対人援助や福祉実践の場所での人間関係の構築に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対人援助について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
(知識及び技術)
- (2) 対人援助の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、適切な対人援助に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○他者に関心を持ち、相手の立場や考えを尊重し、想像することで適切な関わりができる。 ○対人援助や人間関係の構築のためのコミュニケーションの基本技術を身につけ、福祉実践の場におけるコミュニケーション方法を説明し、実践できる。	○演習を通じて福祉サービス利用者を知り、学んだことや気づいたことをノートやワークシートに記入する。 (職業人として)
	ステップ	○他者に関心を持ち、相手の立場や考えに応じた、適切な関わりができる。 ○対人援助や人間関係の構築のためのコミュニケーションの基本技術を身につけ、コミュニケーション方法を説明し、実践できる。	○演習を通じて他者を知り、学んだことや気づいたことをノートやワークシートに記入する。 (他者を理解)
	ホップ	○他者に適切な関わりができる。 ○対人援助や人間関係の構築のためのコミュニケーションの基本技術について説明できる。	○演習を通じて自分自身を知り、学んだことや気づいたことをノートやワークシートに記入する。 (自分を理解)

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「コミュニケーション技術」（実教出版）

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	【1学期】 *実習と関連付ける *講師 演劇 8H 1-1 コミュニケーションの意義と役割 ・人間の理解と人間関係 ・コミュニケーションとは 1-2 コミュニケーションの基本技術 ・言語的コミュニケーションと非言語コミュニケーション ・受容と共感 ・対人援助におけるコミュニケーションの実際
2 学期	【2学期】 *実習と関連付ける 1-3 援助の技法とコミュニケーション ・個別援助としてのコミュニケーション ・集団援助としてのコミュニケーション 2-2 サービス利用者に応じたコミュニケーション ・聴覚障害 *講師 手話 6H
3 学期	【3学期】 2-1 サービス利用者や家族との関係づくり ・利用者や家族との関係づくり ・家族への支援

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・大切なところに線を引き、わからない言葉は調べて、教科書やノートに書き込む
- ・人に興味を持つ
- ・なんでだろ？なんでだろ？と考える、想像する
- ・あ！そうか！と気づく

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト	・ノート ・授業における発表や成果物 ・振り返りシート、感想 ・レポート	・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート
重みづけ	1	2	1
	コミュニケーション技術の学習の確実な習得を図るために、「思考・判断・表現」を重視して成績をつけま す。		

目 標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、適切で安全・安楽な生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 自立生活の支援の展開について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識・技術)
- (2) 自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識・技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○各場面における生活支援技術を、他科目と結びつけながら、根拠に基づく支援方法を理解することができる。それらの知識をペーパーテストにおいて想起し80%以上記述することができる。 ○さまざまな場面において、利用者の潜在的な能力を引き出ししながら、個性を踏まえて自立に向けた支援を安全・安楽に実践することができる。その支援技術を実技テストで80%以上発揮することができる。	○各場面における生活支援技術において、生活歴や背景、個性を尊重しながら、利用者の心身の状況に合わせた支援方法を考え発表することができる。 ○他者の支援を見たり利用者役になったりして多角的に学び、介助者の視点だけでなく利用者の視点からも学んだことを毎時の日誌に書くとともに、次回への課題を明確にして記入することができる。	○場面に応じた生活支援技術を自分の意見を交えて討論し考えることができる。今までに習った生活支援技術を活用しながら、潜在能力を引き出すための声掛けや環境づくりにも目を向け取り組むことができる。 ○授業中気づいたことや学んだことについてメモを取り、後から振り返って確認するとともに指導を受けたことを手順書に書き込んで自分自身のノートを作ることができる。
ステップ	○各単元における生活支援技術を、根拠に基づいて理解することができる。それらの知識をペーパーテストにおいて想起し60%以上80%未満記述することができる。 ○さまざまな場面において、自立に向けた支援を安全・安楽に実践することができる。その支援技術を実技テストで60%以上80%未満発揮することができる。	○各場面における生活支援技術において、利用者の心身の状況に合わせた支援方法を考え発表することができる。 ○他者の支援を見たり利用者役になったりして多角的に学び、介助者の視点だけでなく利用者の視点からも学んだことも毎時の日誌に書くことができる。	○場面に応じた生活支援技術を他者の意見を聞きながら考えることができる。今までに習った生活支援技術を活用しながら、新たな技術を身に付けようと組むことができる。 ○授業中気づいたことや学んだことについてメモを取り、指導を受けたことを手順書に書き込んで記録に残すことができる。
ホップ	○各単元における生活支援技術の留意点を理解することができる。それらの知識をペーパーテストにおいて想起し40%程度記述することができる。 ○さまざまな場面において、自立に向けた支援を実践することができる。その支援技術を実技テストで40%以上60%未満発揮することができる。	○各場面における生活支援技術において、支援方法を考え発表することができる。 ○他者の支援を見たり利用者役になったりして多角的に学び、毎時の日誌を書くことができる。	○場面に応じた生活支援技術を習った通り実践することができる。新たな技術を身に付けようと組むことができる。 ○授業中気づいたことや学んだことについてメモを取り、記録に残すことができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「生活支援技術」（実教出版）

副教材 「介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ」（中央法規出版）

「介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」（中央法規出版）、プリント等

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	- 生活支援とはとは - 実習施設と実習物品の確認 - 手洗い - ボディメカニクス - 車いす操作 実技テスト 車いす - 杖歩行 - リネン類の管理 - ベットメイキング 実技テスト ベットメイキング - レクリエーションの支援 *講師6h
2 学期	- 食事形態 ・食事の姿勢 - 臥位、座位の食事 - 体位変換 側臥位 - 体位変換 上方、下方、水平 - 体位変換 端座位、立位 - 着脱介助 座位（開き） 座位（かぶり）臥位（開き） 実技テスト 臥位での着脱
3 学期	- 排泄の介助 ポータブル移乗 - 排泄の介助 オムツ交換 実技テスト おむつ交換 - 車いす移乗 - 事例検討 *講師2h

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- 授業前に手順書を作成し、介助方法の基本を理解しておく。授業で得た新たな学びを書き込んでいく。
- 授業中は自らが考えたこと、教わったことを分けてメモを取る。日誌はメモで振り返り、介助者側の視点だけでなく利用者役をして感じたことも含めて学びを記録する。
- 各班で介助方法を考える際は自分の意見を述べ、班員と討論して利用者の心身の状況に合わせた介助方法を積極的に考える。
- 授業後はチェックリストで技術の到達度を確認し、更に何をすればよいかを確認して次回の授業に向け目標を立てる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	- 定期考査 - 実技テスト	- 実技テスト - 授業内容確認プリント - 授業内で支援方法考え発表 - 毎時間の日誌	- 身だしなみ - 技術到達確認用チェックリスト - 授業中のメモ - 手順書への書き込み
重みづけ	2	2	1
	この科目の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。		

教 科 福祉

科 目 介護総合演習

対 象 1 年 生 福祉科

単 位 1

主な授業形態 座学

目 標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉に関する他の科目で学んだ知識と技術を統合し、課題解決に必要な資質・能力を身に付ける。

- (1) 課題解決に向けて、他の科目で学んだ知識と技術を関連させながら体系的・系統的に理解するとともに、実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を身に付ける。(知識及び技術)
- (2) 課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえて解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 福祉の見方・考え方を働かせ、健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長の プロセス	ジャンプ ○実習施設のそれぞれの役割や根拠法を理解し、その施設の意義を理解できる。 ○実習前後の課題を自らの考えを踏まえた上で記述することができる。 ○ペーパーテストにおいて80%程度の記述ができる。	○実習前後の課題や学びを実習施設の意義や役割を踏まえた上で、自らの考えを取り入れ記述することができる。 ○プレゼンテーションソフトを活用し実習で得た学びや課題と結果、経験を自らの考えと実習施設の基礎的知識を踏まえた上で他者にわかりやすく伝えることができる。	○配属された施設に興味を持ち実習前後の自らの課題を明確にし、解決に向けて積極的に取り組むことができる。また、自己を振り返り今後の課題を明確にできる。提出物は、自らの意見を踏まえた上でよく考え内容で期日を守って提出することができる。
	ステップ ○実習施設のそれぞれの役割や根拠法を理解できる。 ○実習前後の課題を記述することができる。 ○ペーパーテストにおいて60%程度の記述ができる。	○実習前後の課題や学びを実習施設の意義や役割を踏まえた上で記述することができる。 ○プレゼンテーションソフトを活用し実習で得た学びや課題と結果、経験を自らの考えを踏まえた上で他者にわかりやすく伝えることができる。	○配属された施設に興味を持ち、実習前後の自らの課題を明確にすることができる。 ○提出物は、よく考えた内容で期日を守って提出することができる。
	ホップ ○実習施設のそれぞれの役割を理解できる。 ○ペーパーテストにおいて40%程度の記述ができる。	○実習前後の課題を実習施設の役割を踏まえた上で記述することができる。 ○プレゼンテーションソフトを活用し実習で得た経験をまとめて伝えることができる。	○配属された施設に興味を持つことができる。 ○提出物を期日を守って提出できる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

副教材 「介護総合演習」 （中央法規出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	介護実習 ・介護実習の意義や目的 ・実習生としての役割と心構え ・危機管理と個人情報の保護 1 年通所介護実習事前学習 ・実習施設の役割 ・実習内容の確認
2 学期	1 年通所介護見学実習事後学習 ・振り返りと今後の課題の明確化 1 年通所介護実習事後学習 ・実習の振り返りと今後の課題の明確化 1 年入所施設実習事前学習・事後学習 ・実習施設の役割 ・実習内容の確認 ・実習の振り返りと今後の課題の明確化
3 学期	1 年老人保健施設実習事前学習・事後学習 ・実習施設の役割 ・実習内容の確認 ・実習の振り返りと今後の課題の明確化

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・福祉科目の他の授業内容を復習し、基礎・基本的な知識・技術を身につけておく。
- ・配布されるプリントや資料をきちんとファイリングし、整理しておく。これが、3 年間を通してのポートフォリオになり、知識・技術の積み重ねに繋がる。
- ・幅の広い知識と自らの課題発見力が必要である。常に自分を顧みたり、資料を読んだりして、自分の意見を整理する。
- ・学びをアウトプットするときに、どのようにしたら他者がわかりやすいかを常に考えてレポート等をまとめる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・確認テスト（単元終了時）	・レポートや課題 ・プレゼンテーション	・振り返りシート、感想 ・レポート ・課題提出状況 ・プレゼンテーション資料
重みづけ	1	2	1
	この科目における知識・技術は他の科目での習得していることを前提として、それらを踏まえて活用できることが求められるので、上記の重みづけで総括し、成績をつけます。		

教 科 福祉

科 目 介護実習

対 象 1 年 生 福祉科

単 位 3

主な授業形態 実習

目 標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、根拠に基づいた介護及び支援を実践するために必要な資質・能力を身に付ける。

- (1) 介護及び支援の実践について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
(知識及び技術)
- (2) 介護及び支援の実践に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 地域における継続した生活の支援を行うため、自ら学び、介護及び支援の適切な実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ ○実習施設の役割や根拠法を踏まえたうえで、実習記録が記述できている。 ○利用者理解と生活支援技術、それぞれに他科目での知識や技術を踏まえて実習記録が記述できている。	○生活支援技術と利用者理解それぞれに、考察を伴った実践が書かれている。また、その実践を振り返り、考察及び課題が書かれている。	○記録物は、よく考えられた内容で自分の考えを踏まえた上で記述し、時間と期日を守って提出することができる。 ○記録物を整理し、積極的に確認し全てにおいて漏れることなく記述することができる。 ○実習を全日、遅刻や早退、欠席なく出席することができる。
	ステップ ○実習施設の役割や根拠法を踏まえたうえで、実習記録が記述できている。 ○他科目での知識や技術を踏まえて実習記録が記述できている。	○具体的な実習内容とその内容への考察及び課題が書かれている。	○記録物は、自分の考えを踏まえた上で記述し、時間と期日を守って提出することができる。 ○記録物を整理し、全てにおいて漏れることなく記述することができる。 ○実習を全日、欠席なく出席することができる。
	ホップ ○実習記録が記述できている。	○実習内容と感想が書かれている。	○記録物は、時間と期日を守って提出することができる。 ○記録物を整理することができる。 ○実習を全日程を出席することができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

副教材 「介護総合演習」 （中央法規出版）

自作教材 介護実習記録簿

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	1 年通所介護見学実習 ・通所介護での見学実習 （1 日間）
2 学期	1 年通所介護実習 ・通所介護（5 日間） 1 年入所施設実習 ・介護老人福祉施設（5 日間）
3 学期	1 年老人保健施設実習 ・介護老人保健施設（4 日間）

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・実習時間、記録物の提出など期日や時間を厳守する。
- ・介護実習は、原則全日出席で、欠席した場合は補習実習を行うので、欠席しないようにする。
- ・実習前によく考え目標を定め、目標を解決するために日々どのように取り組むかを考えて実習に臨む。
- ・実習中は、自らの課題解決のために、実習指導者や教員に質問する。
- ・自習後は、課題に対する結果や自らの考えを実習記録に記述する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・実習記録物の内容	・実習記録物の内容	・実習記録の提出状況 ・実習の出席状況 ・実習態度
重みづけ	1	2	2
	この科目における知識・技術は他の科目での習得していることを前提として、それらを実践でどう活用できるかが求められるので、上記の重みづけで総括し成績をつけます。		

目 標

自立を尊重した生活を支援するために必要なころとからだの基礎的な知識を習得し、介護実践に適切に活用できる能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 「生活支援技術」との関連を図り、各器官の機能と基本的な生活行動との関係について理解を深め技能を身に付けるようにする。(知識及び技術)
- (2) 自立生活の支援に必要なころとからだのしくみに関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、福祉に携わる者として適切に判断するとともに、表現し創造的に解決する能力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、ころとからだに基づいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識・技術	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
ジャンプ	○生活支援に必要なころとからだのしくみについて実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を身に付けている。 ○ペーパーテストにおいて80%程度正答することができる。	○定期考査およびレポートにおいて、授業で学んだ内容に関する基礎的な知識を活かすとともに、関連する統計や時事を踏まえて、自分の考えを明らかにした文章を書くことができる。	○板書された内容を授業プリントに正しく写すとともに、口頭での説明も欄外に記載することができる。 ○授業振り返りシートに、授業内容の要点をまとめるとともに、学習課題に対する学びを記述することができる。加えて、新たな課題を自分で立てることができる。 ○課題提出において、十分な内容で提出期日までに提出することができる。
成長のプロセス	ステップ		
	○生活支援に必要なころとからだのしくみについて実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術をおおむね身に付けている。 ○ペーパーテストにおいて60%以上80%未満正答することができる。	○定期考査およびレポートにおいて、授業で学んだ内容に関する基礎的な知識を活かすとともに、関連する統計や時事を踏まえた文章を書くことができる。	○板書された内容を授業プリントに正しく写すことができる。 ○授業振り返りシートに、授業内容の要点をまとめるとともに、学習課題に対する学びを記述することができる。 ○課題提出において、提出期日までに提出することができる。
	ホップ		
	○生活支援に必要なころとからだのしくみについて実践的・体験的な学習活動を通して、解説や助言により理解できる。 ○ペーパーテストにおいて40%以上60%未満正答することができる。	○定期考査およびレポートにおいて、授業で学んだ内容に関する基礎的な知識を活かした文章を書くことができる。	○板書された内容を授業プリントに写すことができる。 ○授業振り返りシートに、授業内容の要点をまとめることができる。 ○課題提出において、提出期日を過ぎて提出することができる。

■ 何によって学ぶのか(使用教材)

教科書 「こころとからだの理解」 (実教出版)

■いつ、何を学ぶのか(年間の学習計画)

単元名・学習内容	
1 学 期	・移動に関するこころとからだのしくみ(生支の実技前に行う) *講師 P54 体圧分散 4H *講師 P32 運動器系 2H ・睡眠、休養に関するこころとからだのしくみ(生支の実技前に行う)
	1-2 からだのしくみの理解 ・生命維持、恒常性 ・脳、神経系 ・運動器系 *夏季課外 認知症サポーター
2 学 期	・食事に関するこころとからだのしくみ(生支の実技前に行う) *講師 P56 2H
	1-2 からだのしくみの理解 ・循環器系のしくみ ・消化器系のしくみ ・呼吸器系のしくみ ・感覚器系のしくみ ・内分泌系のしくみ
3 学 期	・排泄に関するこころとからだのしくみ(生支の実技前に行う)
	1-2 からだのしくみの理解 ・泌尿器系のしくみ ・生殖器系のしくみ ・血液、免疫系のしくみ

■どのように学ぶのか(学び方のアドバイス)

- ・授業ノート・授業プリントの整理を定期的に行う
- ・提出物は必ず期限内に提出する
- ・グループワーク等、積極的に参加し多角的・多面的に考察する

■学んだことをどう評価するのか(学習評価)

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・発表	・授業ノート ・授業プリント ・課題提出
重みづけ	2	1	1
	こころとからだの理解の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。		

1 年 組 番	氏名
---------	----